



トラウマに特化した全国初の人材養成講座 7月からオンラインでスタート 本学准教授らが推進

虐待や犯罪などを経験したことによるトラウマが与える影響を知り、トラウマを抱える人を社会で支えるトラウマインフォームドケア (TIC) を提唱する大岡由佳准教授(心理・社会福祉学科)が、共同代表を務める一般社団法人 TICC でサポーターやコーディネーターを養成するオンライン講座を7月からスタートしました。トラウマに特化した講座は全国でも例がありません。コロナ禍で別離等、様々な生きづらさを抱える人が増える中、トラウマの影響を理解し、配慮ある関わりができる社会へ、意識を変える一歩として期待されます。

大岡准教授によると、トラウマはPTSDより広義で、様々な逆境的体験によって生じます。子どもの問題行動や不適応の背景にも様々なトラウマがある場合が多く、周りの接し方によっては、子どもたちがさらなるトラウマを負う恐れがあります。TICCでは被害者とその家族を支援につなげるコーディネート事業や、相談員を養成する研修、学校現場での教職員対象の研修等に取り組んでいます。

オンライン講座はこうした事業をより広く、大規模に推進するために企画。1回約30分前後、6回の受講を通して、トラウマインフォームドの視点を持って人々に関わることができるTIサポーター(オンデマンド)と、対人支援職にある人がトラウマへの理解を深めるTIコーディネーター(オンラインと対面、ライブ講義)を養成します。

教材は大学院生や学生も参画して制作しました。犯罪被害、虐待、親しい人との死別など事例をもとに、当事者のインタビューやアニメで構成。トラウマを抱える人が見ても、安全に自分自身と向き合えるよう、配慮しています。

大岡准教授は「誰でもここに深いケガを負うことがあります。講座を通してトラウマに対する気づきを共有し、トラウマを負ってもひとと人のつながりの中で回復できる社会の実現につなげていきたい」。武庫川女子大学の肥後有紀子准教授(情報メディア学科)や佐々木達也教授(経営学科)ら、学部学科を越えた教員の協力を得て、持続可能な公益活動としての広がりを目指します。

この取り組みは、JST-RISTEX「トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築」研究開発プロジェクトの「研究開発成果の定着に向けた支援制度」として実施しています(2017~2022年)。

参画する学生のコメント

- ・ナレーションに参加した日本語日本文学科3年、宮本佳歩さん
「事例が多いので、見る人がイメージを膨らませやすいよう、言葉でサポートできれば」
- ・チラシ作りに取り組む情報メディア学科3年、大矢郁実さん
「手に取りやすく、一目で情報が伝わるようにしたい」と話しています。

武庫川女子大学以外の協力者

毎原敏郎(兵庫県立尼崎総合医療センター小児科)、浅井鈴子(同)、大江美佐里(久留米大学医学部神経精神医学講座)、大塚淳子(帝京平成大学現代ライフ学部)、金田康平(TICC)、柳田多美(同)

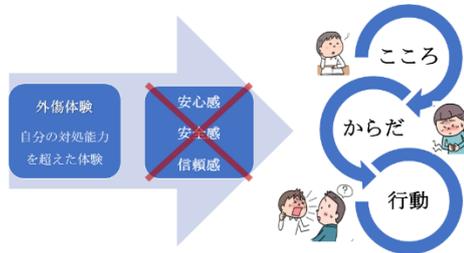
関連ホームページ <https://www.jtraumainformed-tic.com/>

TICC、トラウマ で検索すればヒットします

この件に関する問い合わせは
広報室 Tel 0798-45-3533
メール kohos@mukogawa-u.ac.jp
へお願いします

教材の一場面①

トラウマの反応の仕方は、さまざま



教材の一場面②

ある犯罪被害にあった男性のインタビュー



本出演者が、心的外傷後ストレス症の診断を受けている訳ではありません。

ナレーションの収録に臨む宮本さん





学生と打ち合わせする大岡准教授（左から1人目）